

あおじゆかい

No.97 2015. 2. 12 会報「青樹会」 会報事務局 〒252 - 0201

中国内モンゴロ沙丘・草原緑化研究会 相模原市中央区上矢部 2-14-6
代表 押田 敏雄 押田 敏雄 方(事務局長代行)
(Tel & Fax 042-776-2040) (Tel 042-769-1641 Fax 042-768-2612)
<http://www.5a.biglobe.ne.jp/~aojukai/> e-mail:ryokka@azabu-u.ac.jp

1. 「映画鑑賞会」＋「意見交換会」＋「新年会」が開催される

去る1月17日(土)の14時から、東京駅八重洲倶楽部において、恒例の映画鑑賞会が開催されました。



今回の映画はイギリスで制作された『砂漠でサーモン・フィッシング』(Salmon Fishing in the Yemen)は、2011年の恋愛ドラマ映画でした。監督はラッセ・ハルストレム、出演はユアン・マクレガー、エミリー・ブラント、クリスティン・スコット・トーマス、アムール・ワケドです。脚本はサイモン・ボーファイが執筆し、ポール・トーディの小説『イエメンで鮭釣りを』を原作としています。第36回トロント国際映画祭でプレミア上映された。映画の内容はアラブの大富豪からの「イエメンでサケを釣りたい」という無理難題に答えるために奔走する人々をコミカルに



描いたドラマです。

主人公の不器用な水産学者を、「スター・ウォーズ」シリーズや「ムーラン・ルージュ」のユアン・マクレガーが演じ、「プラダを着た悪魔」のエミリー・ブラントと「ずっとあなたを愛してる」のクリスティン・スコット・トーマスの実力派キャストが脇を固めました。監督には「ギルバート・グレイブ」のラッセ・ハルストレム。「スラムドッグ\$ミリオネア」のサイモン・ボーファイが脚本を手掛けました。一見くだらないと思えることに大人が夢中になる姿に感動しました!!

映画鑑賞会と意見交換会には堀川、中村(民)、中村(千)、西、石川(和)、窪田(定)、窪田(誠)、太田(旧姓:石神)、菊池(静)、樋川、押田(敏)の11名が参加されました。映画が終わってからの意見交換会は各自の近況報告、沙漠緑化に注いだ感想などが披露されました。

次いで、場所を「庄や八重洲口店」に移動した新年会には鈴木(亜)、アラタンシャ、立野の各位も加わりました。今回の遠来は常連の窪田(定)さんが長野から、久々の菊池さんが茅野からの参加でした。なお、アラタンシャさんは近田さんの知人で中央畜産会に勤務されている内モンゴル出身のモンゴル人です。



堀川さん 窪田(定)さん 窪田(誠)さん



菊池さん



石川さん



樋川さん 太田さん 中村(民)さん 西さん



中村(千)さん



押田さん



左:アラタンシャさん



着席・手前:鈴木さん、奥:立野さん

2. 沙漠学会乾燥地農学分科会で押田先生が講演

去る 2014 年 11 月 4 日に東京大学中島薫一郎記念ホールにおいて、日本沙漠学会乾燥地農学分科会主催の平成 26 年度講演会が開催され、押田先生が講演をしました。講演会は 4 名の演者が発表し、氏は「中国内蒙古自治区赤峰市翁牛特旗烏蘭敖都村での沙漠防止化活動」について報告しました。その内容は現地での活動の 20 年を振り返っての実績や苦労話



が主なものです。なお、講演の詳細は日本沙漠学会の機関誌である「沙漠研究」24・3: (2014)に掲載されています。

3. 窪田さんが叙勲(瑞宝双光章)されました

長野在住の窪田定一さんがこの度、「瑞宝双光章」の叙勲の栄に浴されました。この勲章は「公共的な職務の複雑度、困難度、責任の程度などを評価し、職務果たし、成績をあげた人に対して授与」されるものだそうです。

聞くところによれば窪田さんは昭和元年生まれ、今年 89 歳だそうです。長野県に生まれ、長野県の農業・畜産の専門家として奉職され、定年後には県の外郭団体などに勤務され、現在も複数の組合などの役員を務めているそうです。

川鍋先生の薫陶を受け、我々の会に入会され、何度となく内蒙古に足を踏み入れています。

窪田さんはお元気なので、まだまだ我々に叱咤激励を下されることを期待し、心からお祝いを申し上げます。



なお、勲記(叙勲を受けたことを証する書)には「日本国天皇は窪田定一に瑞寶雙光賞を授与する 皇居において璽をおさせる 平成 27 年 1 月 1 日 内閣総理大臣安倍晋三 内閣府賞勲局長黒羽亮輔 第 12733670 号」と記されています。もちろん原本は縦書きです。ところで、璽とは天皇の印鑑を意味する言葉です。

4. 会員からのたより

<中国情報>

「店員のほとんどが…」と中国人観光客、日本でのショッピングで目にした“面白い現象”とは？—中国ネット・Record China の記事を紹介しします(1月24日(土)配信)

21日、中国新聞社によると、中国人観光客の日本における平均消費額は23万円にも上る。そうした中、日本を訪れた中国人観光客が、ある面白い現象を目の当たりにしたという文章がインターネット上に掲載された。

日本を訪れる外国人観光客は2011年の震災を機に減少したが、2012年には増加に転じ、2013年には1,000万人を突破。2014年には1,340万人となった。中でも中国人観光客の回復が顕著で、日本の観光産業への貢献も大きい。

日本でのショッピングはいくつかの人気スポットがある。たとえば、東京であれば銀座や新宿、池袋など、大阪であれば心斎橋などだ。こうした場所は人であふれ返っている。私たちは真珠のアクセサリーショップやドラッグストアなどに行ったが、どこも芋洗い状態だ。

私たち中国人は、国内では日本製品をボイコットしているが、ここに来ると奪い合うよ

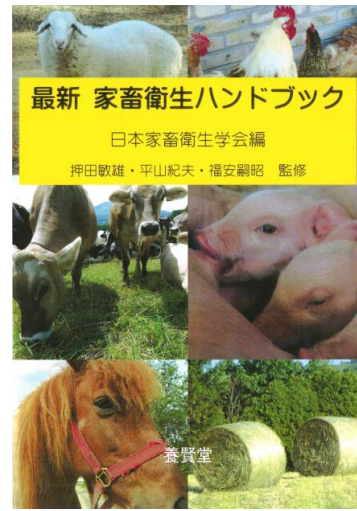


うに日本製品を買っていく。これって恥ずかしいこと？理由は安いからだ。私は明治の粉ミルクを買ったが、中国で買うよりもずっと安かった。

応対する店員は、多くが華僑や日本で働く中国人だ。日本人もいるが、多くの場合、片方の親が中国人である。そのため、彼らはみな標準的な中国語を話し、セールストークもうまい。あれほど日本製品を嫌がっているながら、それを売り買いするのはどちらも中国人だというのは面白い。(翻訳・編集/北田)

<押田先生の新刊:最新 家畜衛生ハンドブック>

刊行の序文にあるように本書は約25年前に出版された「新版家畜衛生ハンドブック」を前身としている。25年と言う年月は、大学を卒業し、社会活動に従事する立場ではあつという間に過ぎ去ってしまうが、過去25年間には、畜産業を取り巻く社会情勢に大きな変化が生じてきた。近年から遡れば、高病原性トリインフルエンザの発症、口蹄疫の発症、牛海面状脳症(BSE)の発症が認められ、生産現場に大きなショックとダメージを与えると共に対策の強化、法整備が取り組まれた。また、O157大腸菌などによる食中毒や食肉加工における衛生の問題なども取り上げられ、一般消費者からも注目を浴びるようになってきている。また、細菌感染など排泄物の処理についても法的な整備が取り組まれた。



本書はその誌名によるイメージとは異なり、多彩な執筆陣によって家畜の衛生管理、すなわち健康な動物の飼育管理の情報提供から始まり、健康管理における栄養供給、飼料の管理、繁殖成績を安定させるための健康管理、日常の健康管理における留意点と症状の確認、治療時の管理法、さらには生産現場、流通過程、加工過程など様々な場面での生産物の取扱いに関する衛生的な観念および排泄物の適正な処理と利用に関する技術情報と畜産業を取り巻く関連の様々な法律の解説までが網羅されている。感染症については病名と原因、症状、対策が一覧表として取りまとめられている。これら内容はウシ、ブタ、ニワトリ、のみに限らずウマや蜜蜂を対象としたところまで記述されている。畜産現場に従事する者にとって机上に備え、いつでも手に取り疑問に対する答えを導ける内容となっているので、家畜衛生学に興味ある者だけでなく関係者が一様に本書を愛読されることを期待したい。<評：東京農業大学農学部畜産学科教授 祐森誠司> (養賢堂：定価 10,000 円+税 / 2015年6月末日までは税・送料込で 8,000 円にて購入できます。詳細は書店ではなく、押田まで直接)

5. 押田先生の最終講義が行われます

押田敏雄先生は3月末をもって勤務先の麻布大学獣医学部を定年退職されます。大学では定年教員の最終講義を恒例により実施しています。同大学のHPに詳細が掲載されています。どなたでも参加可能です。

日時 2月26日(木) 17:00~
場所 麻布大学8号館7F大ホール

